

令和元年度学校評価（教育活動診断より）



12月に実施した「教育活動診断アンケート」へのご協力、ありがとうございました。今年度も子どもと保護者の両者に協力していただきました。

2月26日に「学校関係者評価委員会」を開催し、5名の委員の皆様とアンケートの分析（※）を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

※分析については、教育活動診断アンケートの評価A（よくあてはまる）B（ややあてはまる）C（あまりあてはまらない）D（あてはまらない）とし、主としてAとBを合わせた数値を基に行っています。AとBは肯定的評価、CとDは否定的評価ということになります。本年度も、数字の4段階（1, 2, 3, 4）で選択し、マークシートに記入する方法で実施させていただきました。それぞれ1はA, 2はB, 3はC, 4はDに置き換えて、記載しています。

全体的な傾向・特徴 **子どもの評価は概ね良好、保護者評価は改善を示唆**

◎子どもの質問項目16項目中9項目が80%以上の肯定的評価で概ね良好であると考えます。一方、保護者は19項目中9項目が80%未満の評価となり、改善に向けてのご示唆をいただいたものと考え、より満足度を向上できるように改善していきます。

[※子ども、保護者、教師の肯定的評価の割合（ ）内は昨年度の割合を示す]

「地域から信頼され、愛される学校づくり」について

問1 「学校は楽しい」 ……子ども **87%**(90)、保護者 **86%**(88)、教師 **97%**(100)

子ども・保護者ともに高い数値を示している。子どもが学校に楽しく元気に登校しているかは、学校にとっても最も大事な指標のひとつである。

問3 「授業がわかりやすい」 ……子ども **87%**(88)、保護者 **72%**(72)、教師 **93%**(90)

保護者の評価は昨年度と同様で、子ども、教師と比較してやや低い傾向が続いている。子どもの習熟状況をきちんと見取り、分かる授業を実践し、授業公開等を通してご理解いただけるように努めていく。

問6 「困ったときに、何でも話せる先生がいる」 ……子ども **69%**(65)、保護者 **67%**(63)

信頼されているというには数値が低い。Aの回答については子ども40% (37)、保護者39% (24)と昨年度より向上しているものの、教師が子どもの側にいて、いつでも子どもの話に耳を傾けることができるよう一層の努力が必要である。子どもの思いを受け止めることができるよう対話の機会を意図的に設けていく。

問15 「先生たちは、あなたたちのことを思いやり、きちんと話をきいたり、話をしてくれたりしている」

…子ども **85%**(90)、保護者 **85%**(88)

上記の問6に対し問15では子ども、保護者ともに高い数値を示した。ただし、CとDの合計については子ども13%保護者11%であった。どの子に対しても、常に親切、ていねいな対応をしていく必要がある。

問13 「道徳の授業では、しっかりと考えている」 ……子ども **82%**(88)、保護者 **82%**(78)

子どもの数値が昨年度より6%低下している。子どもたちの問題意識や価値観を刺激し、子どもが進んで考え話し合う授業が展開できるよう教師の研鑽が必要と受け止めたい。引き続き、道徳の一斉授業公開日の設定等により、保護者にも道徳の授業について理解していただけるよう努めたい。

「子ども同士が自己実現できる学校づくり」について

問5 「困ったときに何でも話せる友達がいる」 ……子ども **81%**(86)、保護者 **77%**(77)、教師 **97%**(86)

肯定的評価が減っているというより否定的評価の子どもが増えていると受け止め、良好な人間関係作りのために、子ども同士が関わり合って遊んだり学んだりする場を一層設けていくよう努めたい。

問7 「いやなことを言われたりされたりしたことで長い間なやむことはなかった」

…子ども **77%**(77)、保護者 **79%**(78)、教師 **97%**(100)

数値の上では昨年度と大きな違いは認められないが、20%を超える子どもが不安や悩みを抱えている事実を重く受け止め、「学校いじめ防止基本方針」に則って、組織的にいじめ防止・早期発見と対応に努めていく。

問10 「ふこうずっ子の家庭学習に書かれている学習時間のめやすをまもっている」 …子ども **78%**(76)、保護者 **65%**(54)

保護者の数値が昨年度より11%高くなっている。本年度から始めたぐるぐるノートや家庭学習の振り返りが影響しているのではないかとと思われる。習慣的な家庭学習は、確かな学力の定着に大いに関わることから、今後も一層家庭と協力して指導をすすめていく必要がある。

問13 「友達や家族の役に立つように、自分にできることを進んでやっている」 …子ども **77%**、保護者 **71%**、教師 **83%**

本年度新設の質問事項である。国際的調査では、先進国の中でも日本の子どもたちは自己有用感、肯定感が低いという結果が報告されている。この数値と教育活動の在り方の関連を見極め、指導に生かしたい。



教育目標との関連

教育目標に迫るため、本年度も右の5つを重点目標として教育活動を行いました。そこで、アンケートをこれらに照らし合わせて分析しました。

- しっかり朝ごはん
- せなかピン
- いつもスマイル
- よく見てあいさつ
- くじけずラン

① しっかり朝ごはん

朝ごはんの大切さを認識し、実行していただける働きかけを

問 1 1 「早寝早起きを守って健康な生活をしている」……………子ども 72%(79)、保護者 86%(60)

問 1 2 「しっかり朝ごはんを守って健康な生活をしている」……………子ども 85%(79)、保護者 56%(60)

昨年度の児童用アンケートでは「早寝早起きしっかり朝ごはんを守って健康な生活を過ごしている。」という質問項目となっており、保護者アンケートでも同様に、「早寝早起き」と「しっかり朝ごはん」の2つの要素が入っていたため、質問事項を分割した。その結果、問 11 と問 12 では、数値に大きな違いが現れた。「早寝早起き」については、保護者は積極的に子どもに声かけをしてくださっている様子がうかがわれる。また、「しっかり朝ごはん」の保護者数値は低く、朝の慌ただしい時間に主食・主菜・副菜を揃えることが大変難しいという実態も表れている。しかし、子どもたちの数値は高いことから、用意してもらった朝食をきちんと食べて登校していると考えられる。今後も、「早寝早起きしっかり朝ごはん」の大切さを家庭や地域にPRするとともに、夏休みの「朝ごはん大作戦」や「お弁当作り」、「生活チェック」等を通して、子どもたちの健康に対する意識を高めていきたい。

② せなかピン

家庭学習の習慣づけ、家庭での読書の推進を

問 4 「宿題や提出物を忘れない」……………子ども 73%(81)、保護者 82%(85)

問 9 「読書が好きで本をよく読んでいる」……………子ども 72%(73)、保護者 57%(56)

問 10 「ふこうずっ子の家庭学習に書かれている学習時間のめやすをまもっている」…子ども 78%(76)、保護者 65%(54)

問 4 は、保護者の数値に対して子どもの数値が低い。これは、大人による見届けが必要であることを示しているとも捉えられる。読書に関しては、例年同様、保護者の評価は低い。学校での子どもたちは、読書を好んでしている姿が見られる。家庭での過ごし方と密接な関係があることと思われるが、情操教育および昨今求められている考える力や判断する力を育むためにも、一層、学校と家庭が協働して読書の推進を図っていきたい。

学校では分かる授業、適切な宿題の提示、学習方法の説明を実施していくので、ご家庭では学んだことを定着できるように、机に向かわせる習慣を身に付けるようにご協力をお願いします。

③ いつもスマイル

何でも話してもらえ信頼される教師像をめざして

問 6 「困ったときに、何でも話せる先生がいる」……………子ども 69%(65)、保護者 67%(63)

問 13 「道徳の授業では、しっかりと考えている」……………子ども 82%(88)、保護者 82%(78)

問 7 「いやなことを言われたりされたりしたことで長い間なやむことはなかった」

…子ども 77%(77)、保護者 79%(78)、教師 97%(100)

いじめのない学級・学校づくりのために、道徳の授業や学級活動を大切にするとともに、日常においても子ども同士の関わりを注視し、問題解決するように努めており、問 7 や問 1 3 において比較的高い数値を示した。「困った時に何でも話せる先生がいる」という項目は、昨年度より数値はアップしたものの、やや低い数値を示している。問題の予防・把握・早期解決のための組織的な体制をつくり、子どもや保護者の相談を受けとめ、より信頼される教師をめざすとともに、子どもを厳しくも温かく見守り続ける教師集団となるよう努めていく。

④ よく見て あいさつ

地域や家庭でのあいさつを・返事を本物に

問 2 「あいさつ、返事がよくできる」…子ども 86%(90)、保護者 73%(65)、教師 83%(100)

子どもたちは、昨年度から校長が提示している「幸田町で一番あいさつができる学校」の実現をめざし、校内をはじめ校外行事でもしっかりとあいさつの取り組みを見せている。子どもの数値は昨年度よりやや下がったが、保護者の数値は上がっており、子どもたちのがんばりが伝わった結果であるとともに、「あいさつは家庭から」と、家庭での指導に力を入れていただけたものと捉えたい。しかし、教師の評価は昨年度に比べて厳しい。これは、あいさつ指導の一層の工夫と、教師自らが幸田町でいちばんのあいさつを心がけるべきであるとの自省を表す数値であると捉え、指導法や指導体制の改善に努めていく。さらに、学校が学区の諸会合にて行っている、学区の皆様にも積極的に声をかけてくださいといった広報を、今後も継続していく。

⑤ くじけず ラン

ランニング、体幹強化等の活動を今後も継続的に行う

問 8 「屋外で遊ぶことが好き」…子ども 82%(82)、保護者 81%(85)、教師 90%(100)

この目標に係る項目ではないが、「屋外で遊ぶことが好き」と答える子ども、保護者とも高い数値を示した。学校では、暑さや寒さに関わりなく運動場に出て、元気にボール遊びをしたり追いかけっこをしたりしている子どもたちの姿が見られる。つらいことも耐えがんばる力、体力向上をめざしてほしいとPTA委員対象のアンケートからもご意見を多数いただいているので、今後も継続していきたい。

上の分析に基づいて、今後の学校・学級運営に生かしていきます。なお、紙面の都合上、すべての項目について紹介はできておりませんがご了承ください。ご協力ありがとうございました。